

# 石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場

平成26年11月25日

石狩湾系ニシンの今漁期（平成27年1～4月）における漁況は、次のようになる見通しです。

- 沿岸域への来遊資源は、2月初め頃まで6年魚（2009年級）主体の大型組成となる見込です。4年魚以上の資源重量としてはH25, 26漁期の40～60%程度と推定されます。
- 漁期後半には、高水準と推定される2012年級が3年魚として来遊する見通しですが、魚体が小さいため今期に漁獲対象となるのは一部と考えられます。

後志以北日本海沿岸に来遊する産卵群の全体動向の予報であり、海域により来遊傾向が異なります。

本年10月に留萌沖で実施した稚内水試調査船「北洋丸」によるトロール調査の採集物は、下図のとおり、尾叉長29cm以上の6年魚（2009年級）を中心とする高齢・大型群と、20cm台前半の3年魚（2012年級）の占める割合が大きくなりました。前者（高齢・大型群）は平成25, 26年に漁獲物の中心となった資源の取り残し分であることから、すでに資源尾数は減っていますが、6年魚以上としてはこれまでで最も一曳網あたりの採集尾数が多くなりました。そのため、例年高齢魚が来遊する序盤（2月初め頃まで）は、この大型群が漁獲の主対象となる見込です。

一方、3年魚（2012年級）についても、この年齢としてはこれまでで最も一曳網あたりの採集尾数が多く、0歳期から各種調査や漁業への混獲が目立っていたことから、今のところ高い資源水準にあると考えられます。今期が実質的に初めての漁獲加入となりますが、10月時点の尾叉長の平均が24cm前後と成長が遅めであるため、3割程度が今期は成熟せずに沖合に留まるとみられ、さらに網目2.0寸以上の刺し網で漁獲対象となるのは、比較的成長の良い一部になると考えられます。例年の傾向であれば2月下旬頃から3月中の来遊となりますが、ここ3年間は3月・3年魚の漁獲が低調であり、今期についても漁期後半の漁獲量を大きくのばすような貢献があるのか、現時点では判断が困難な状況です。

これら調査データを加えた資源計算から、3年魚以上の資源重量としては高い水準にあると推定されますが、上記のとおり今期対象となるのが一部と想定される3年魚を除く4年魚以上の資源重量は、平成25, 26年の40～60%程度と推定されます。今期の各地の漁獲量は、6年魚以上が来遊する序盤の海況、そして3年魚の今後の成長・成熟状態に大きく左右されることになるでしょう。

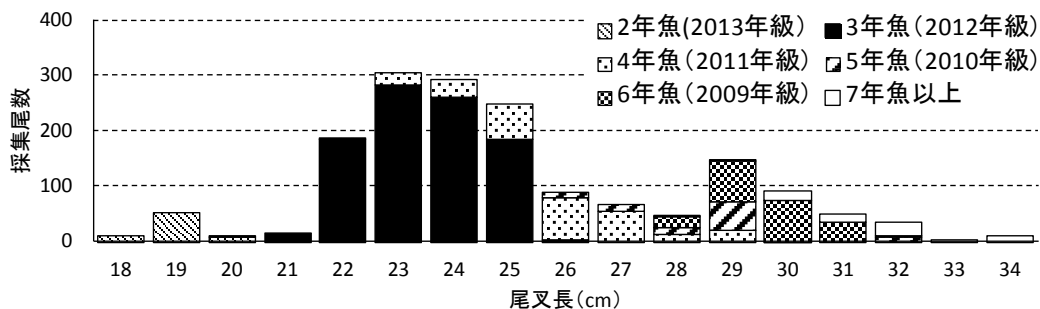


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾叉長組成